

これ故に明礬とアンモニヤを以て溷濁物を沈澱させ又亞硫酸瓦斯骨炭などによつて漂白することがある然し透明さ加減色の濃さは前述の様な原因から来るものであるから其の方に注意を拂へば沈澱法や漂白法を施さないでも良好なものが得られる。けれども無論これらは澱粉材料の如何に依るもので糯米、粳米から造つたものは最も上等で馬鈴薯や甘藷で造つたものは粘り弱く其の甘味も少く色濃厚で又不透明であつて一種固有の臭味があるからあまり好ましくない。

近頃化學の進歩と共に硫酸を以て澱粉を變化して飴とする法も行はれたがこれは硫酸殘留の危険があるから注意すべきである。終りに臨み御參考までに水飴成分々析表を掲げます。

品名	水分	麥芽糖	糊精	蛋白質	灰分	備考
水様	二五、四八	五七、五三	一四、五九	—	〇、二七	東京衛生 試験所分析
同	一五、五	五五、三七	二七、八二	〇、八六	〇、三七	
同	二一、五〇	六五、〇五	二二、九四	〇、四四	〇、〇八	同
粟水飴	一八、七五	五五、三	二四、四四	一、四二	〇、一七	同
晒水飴	一八、五七	五、八八	二五、九二	〇、九六	〇、二三	同
黄金飴	三三、五〇	四七、四〇	一七、六一	〇、〇五	〇、〇五	同

雜 錄

室内裝飾法

東京府立職工學校教諭 津 田 信 良

近來社會が物質進歩劇しく審美的趣味、精神的修養の缺乏する時にあたり、室内裝飾法の研究はたゞに専門家の仕事のみならず、一家を保ち一家族を教養するもの、須からく考へ置くべき事柄なり。居は人の性を移すとかや、殊に住宅建築、小學校建築にては最も注意を拂はざるべからず。室内裝飾は國民の風あり、一朝一夕に定まるものにあらず、生活の状態、氣候風土の關係、風俗習慣の影響する事多し。西洋の裝飾を日本に應用せんとするには何故に又何の目的を以て用ひられしか、依て來る所を先づ究めて之が應用を試みるべきものなり。英國の如き霧深き所にては派手な暖かき感じある裝飾法を取るべく、日本の如き暖かき晴朗なる天氣と愉快なる風景とを有する國にては室内裝飾法は寧ろ清雅なる手段を取るべきなり。室内を裝飾せんとするには先づ其の周圍の事情を考ふると共に又一般室内裝飾法の原理をも辨へ置かざるべからず。

一、室内裝飾の三原則 前述の如く室内裝飾法に、種々の事情の關係するあり、又人には趣味の異なるありて此の原則たるや數學上の如き確然たる原則あるにあらず、然るに先づ次ぎの如き

三原則は必ず守らざるべからざるなり。

イ Simplicity 簡單 ρ Truth 信實 ς Suitability 適當

裝飾は出来るだけ簡單になすべく、複雑なるを以て美なりと考ふるは間違ひなり。複雑なるは寧ろ簡單なる裝飾にては美感を興ふる腕前なきに因り之を複雑にして目を惑はしむるなり。時に性質上複雑入念の裝飾を施す事あるも尙且つ其の間に簡易なる所ありて目をやすむる事を計らざるべからず。

眞は善の最大要件なり、僞なるべからず、此の點に於てペンキ塗又は漆喰塗等にて大理石の如き見えをなましむるは僞なり、料理屋又は床屋などにては可なる向も、紳士の住宅には之れを用ゆべからず。然るに金色塗り、額縁の如きは其の黄金の額縁ならざる事明瞭なれば斯くの如きは僞にあらず。

裝飾其の物は如何に精巧に出来居るも、其の場所其の建物の性質に適當ならざる裝飾は以て賞讃するの價値なし。凡て設計は「らしき」と云ふ事必要なり。住宅なれば住宅らしく、商店なれば商店らしき裝飾を加へざるべからず。

二、形と色 前の三原則を心に入れて居ると同時に必要なる事は形と色である。形は其の表面の色と裝飾とにより、或る程度まで美化せしむる事を得るも元來形は其の物より凡ての裝飾を取

り去りても尙良く見るものたらざるべからず。色は色其の物の美醜でなく他との關係とにより善くも悪くも見ゆるものなり。

イ Form 形 ρ Color 色

形を調ふるには對照と釣合と云ふとを辨へざるべからず。日本にて昔より眞行草と云ふ事あり即ち對照釣合の取り方几帳面なるものと然らざるものとの程度を示したるものなり。對照とは左右同形に出来、中心を有するものなり。レネーサンス式の建物や、多くの花瓶等の形之れなり。釣合とは假令對照が破れて居るも尙釣合の取れたるものを云ふ。ゴシック式の建物又は扇面などの模様は七五三の釣合を取り配置したるものなり。又釣合には各部の比例と云ふ事を考へざるべからず、即ち希臘の建物は建登せ低き爲め屋根勾配緩にして低く、羅馬の建物は建登せより高き故に屋根勾配もより急に、ゴシック式の建物に至りて建登せ最も高き故に屋根勾配も最も急にして高し。これ各部の比例より來りたる結果なり。

色には其れ自身に温かき性質の色と冷き性質の色とあり。即ち白黄橙赤等は温かき色にて青紫黒等は冷たき色なり。又色には匂と云ふ事あり、赤と橙又は黄と緑等は同じ匂ひの色と云ふ。又色には標準の色と副の色とあり。標準の色は派手にして副の色は薄す暗きものなり。又色には調子と云ふ事あり、調子を取るに關係なき色にて調和せしめ得る事あり。強き感じを興ふべき赤と

緑の如し。似よりたる色にて調和を取る事あり、おとなしき感じを與ふ。緑と黄の如し。凡そ調和の原理は音學上の調和と同様にて波動説にて説明する事を得べし。然るに實際に臨んでは目にて判斷するより外なきなり、實に實地の經驗を要する次第なり。

三、裝飾を施す方面 裝飾の原理を辨へたる上にて室内を裝飾するに當り其の施す場所は次の二方面に別つを得べし。

イ 構造に關する室内裝飾

ロ 家具

構造上室内の裝飾を施すに壁天井床には夫れ／＼一定の條件あり、又室の性質により趣味を變化せしむべし。即ち天井は明るく輕き色を用ゆべく、床は重き色のものたるべく、壁は實質ある意味を表はすべし。

食堂は男性的の裝飾を要するものなり、即ち強く且つ質朴なるべし。壁の色は緑を帶るか、茶色又は黒赤き色等をよしとす。床は敷物を用ひざる寄木張りをよしとす。明りはあまり明る過ぎるは悪しく、燈火は中心に置くべし。額は花鳥果物をよしとし、景色人物は禁物なり。水彩畫よりもむしろ油繪をよしとす。暖爐は必らず設くべし。客の入口給仕の入口とは別に設けて混雜せざる様にすべし。部屋の位置は西日をさけ、又南も悪しく形は矩形を宜しとし、幅は少なくとも十五六尺に取り、成るべく奥まりたる所に設け、客室より食堂に向ふ時に、玄關の方に向きて進む

やうな位置に置くべからず。

客室は女性的の部屋なり、愉快に明るすべし。短時間使用する所にてあきる事なき室なれば、随分置き物等も派手に賑かに陳列するをよしとす。位置は東南をよしとす。窓は成るべく高く張り出し窓などを設くるも亦妙なり。尙暖爐を設け、床は毛氈を敷くべし。これは玄關よりの出入便なる所に設くべし。

書は書齋室を別に設けたるものと、一所のものとなり。何れにしても靜かにて、愉快なるべし壁には書架を造り附けにする事あり、東向きにして左光線を取るべし。尙ほ採温換氣の點につき殊に注意すべし。

寢室は愉快にして樂しく窮窟ならざる室たるべし、且又靜なるべし。あまり花やかにあまり整然たるは悪し、寢臺と反對の所に暖爐を取るべし。窓はあまり寢臺に近けず、頭の方より光線を彩るべし。足の方より彩るは今は禁物なり。室の近隣に化粧室浴室又は便所等を設くれば至極便利なり。

臺所は勝手口又は裏門の近くに設け、又手近に食料庫、給仕部屋を設け、食堂との間には配膳室を置くべし。室は最も明るく西日をさけ、空窓を設くるをよしとす。但し清潔にして濕氣を帯びざる場所たるべし。天井は高く漆喰は悪しし、木製又は金屬製たるべし。床はコンクリート又

は石敷きにして其の上に板を列べたるをよしとす、換氣法に注意すべし。
家具は其の物として役目を遂ぐるに便利なるものたると同時に、又室内の裝飾たるべし。故に其の形色大き等其の室に相應したるものたるべし、各室に用ゆる家具は、一般仕來りあるも之れに對する説明は家具工作法の講義となるべければ茲に略す。

中流臺所構造及器具懸賞當選者發表

中流臺所構造及器具に關する計畫懸賞募集は大正二年十一月十五日東京高等工業學校に於て其の審査の結果を發表せられたり。應募者總數二十九人の内當選者は壹等賞(金拾五圓)清水英太郎 貳等賞(金拾圓)白田銀次郎、參等賞(金五圓)小島鋤二郎の三氏なり今審査報告書を得たるを以て左に掲ぐべし。

臺に臺所構造及臺所用具計畫懸賞審査御下命相成審査の結果別紙の通に候條及御報告候也

大正二年十一月十五日

審査委員長	工學博士	阪田真一
審査委員		後閑菊野
		河津七郎
		前田松韻
		杉田全三
		吉田全三

東京工業學校長手島精一殿

報告書

大正二年六月募集せし中流臺所構造及臺所用器具計畫に付之を審査するに應募者總數二十九名にして、何れも臺所計畫に加ふるに器具の計畫を以てし、特に器具の計畫に注意せしもの少なからず。一等二等三等各一名褒詞者四名を擧げたり。

審査の方針は一、募集規程に適するか否か一、臺所用器具の配置一、臺所器具の構造一、臺所床、地盤、窓(明取、換氣壁等の構造一、室の方向等の項目に就き其優劣を定むと雖も、本募集は中流の臺所と云ふにあるを以て今日の民度に考へ、從來の臺所並其器具に改良を施し之を適當に配置せるものにして多額の設備費を要せずして實行し得べき考案たるべきこと)に重きを置き、假令便利良好なるべきも多額の費用を要し中流に適合せざる計畫の如きは捨つるの方針なり、之によりて審査するに其要項に適し臺所改良に資すべきもの少なからず成績概住良なるを認め左に擬賞者を選定し併せて擬賞の理由を略述せむ

補習學校建築科第一學年生徒 清水英三郎

一等賞

室は二坪二合五勺の狭き間に於て土間、流其他の配置當を得各用具の使用に對して便利且通氣、採光、十分なり而して床下を叩となし清潔を保つに便利となせり特に稱すべきは從來の坐働式臺所を改めて立働式に構造し水流しに密接して料理臺を設け將來臺所用として愛用せらるべき冷蔵庫を設け比較的塵埃の少なき方面に配膳臺を設けたる如きは良好なる考案にして猶近時既に大都市に係らず適用せる瓦斯を用ひ兼て薪炭をも用ふるに適せしめ又各種臺の下を適當に利用せるが如きも亦可なり消火器の設備をも加へたるは注意の周到なるものなり是優賞に擬したる所以なり

此計畫に關し稍遺憾なるは水流の位置と煮焚の位置との配合宜しきを得ず宜しく水流し料理臺を中央部に設け其背後に煮焚の竈を据ゆ水道栓を流と料理臺との中間に置き而して流しは水槽となし得るが如くに地盤より不朽性材料を以て築造し米櫃を改良し其位置を高くし煮焚場と戸棚との位置を遠からしむるを得一隅に掃除具を容るべき設備ならしめば一層良好なる臺所たるを得ん

二等賞

徒弟學校家具分科第三學年生徒 白田銀次郎

構造配置に關しては寧ろ一等賞者の計畫に勝るの點少なからずと雖室に於て七合五勺の廣さを加へ炊事器の適用は前者に及ばざる所あり是れ二等に擬したる所以なり特に稱すべきは戸棚の廣くして炊事より生ずる臭氣抜きを附し食料品と煮焚の場所とを離したるは良好なる考案なりとす

此計畫も亦流及料理臺を中央に設け冷蔵庫の如き進歩的用具を使用し米櫃醬油樽等の綿密なる注意を施せば優に改良されたる